

となっていて、非常な努力が伴うが、それなりに十分に理解も可能であり、有意義であることを認めて学習にいそんでいるのが、彼らの実態であるといえよう。

• “大学受験の教科として意識しているか”

- (a) 意識しながらやっている 10
- (b) 全く意識しない 59
- (c) 時々思うことがある 36

にみられるように、1年生という環境は、殆んど生徒が大学受験を3年後に控えているが、それには意識的わざわざをうけることも余りなく、その点で、基本的ねらいも十分に満足させながら、思い切って効果をあげるように仕組まれて行けるのではないかと思える。

以上、若干の調査を通して知られる学習の実態をあげたに止まったが、新しい彼らの関心に応え、努力を効果的に結実させてやれるように今後、さらに検討を重ねて行くようにしたい。

なお、参考のために1年生の世界史の成績が学業全体に対し、如何なる相関関係を示しているかをつぎに掲げてみた。

	U	-5	-4	-3	-2	-1	0	1	2
V	X	54	59	64	69	74	79	84	89
	Y								
-4		45	1	2	2				
-3		55	1	2	2	3	2		
-2		65			4	5	7	3	
-1		75		1	5	10	9	7	
0		85			3	10	17	16	4
1		95			1	6	6	17	11
2		96						1	

X……学業成績平均点

Y……世界史成績

R=0.41

## 世界史と他科目との内容上の関連

小 倉 幸 春

### (一) 社会科社会との関連

社会科世界史と社会科社会との間には、内容が重複し共通するものが少なくない。しかし社会においてとり上げられる世界史的事項は、体系的でなく、その目標からは副次的、補

足的でもあるので、多分に恣意的である。それで、社会教科書の記載から世界史と共通する事項をひろい、これをもって両科目の関連とする。

昭和31年度使用の社会教科書11種から世界史と関連する事項をぬき出すと第1表のようになる。

## (1) 政 治

この項目は、社会ぜんたいのうちでもっとも世界史と関連性が高い。これは、社会生活が政治のあり方によって大きな影響をうけるものであり、政治のもつ歴史的な性格から当然である。

とくに、おもな国々について、その歴史的、社会的条件や、思想的背景を明らかにすることによって、民主政治の原理と運営を理解させるために、多くの教科書は、欧米における民主主義の展開をくわしく記述している。なかでも市民革命には、すべての教科書がふれている。

くわしい記載ほどよいわけでない。しかし民主政治の発達を学習するさい、そうとうくわしくその背景や経過にふれないと、棒暗記的知識の授受に終わってしまう恐れがある。例えば、啓蒙主義について、ホッブス、ロック、ヴォルテール、モンテスキュー、ルソーの人名と学説名を覚えれば足れりとしてしまい、その政治史との関係や社会的影響に及ばない。いわんや年代的関心やその所説の背景の理解がない。このような欠点は、以前の一般社会の指導経験によって予知できるのである。またフランス革命のとり上げ方でも、平板的でしめくりがなくなるおそれが多分にある。したがって、社会科社会においてか、または社会科世界史において、欧米における民主主義の展開を体系的に学習させる必要がある。その上に、民主政治の意義とその特質がより十分に理解されるであろう。社会教科書で、民主政治史をほとんど記されないものがあるのは、その知識と理解がすでに終わっていることを前提とするのであろう。

つぎに、国際政治の項目についてであるが、近代国際社会の成立過程を明かにすることはこれこそ世界史ならではの問題である。社会教科書は、さすがに簡単な説明ですませている。しかし、それだけに近代国際政治史の知識と理解がなければ、ますますその学習は困難であり、これも孤立した知識の羅列となる可能性が大きい。この項目での目標は、国際政治の現状の理解にあり、近代国際社会の成立過程の解明は、世界史の領域にまかせてかんたんでよいといえよう。ここでは、第1次大戦から今日に至るまでの国際政治の動向がよく書かれている。その取扱いの観点は、国際協調と世界平和の実現にあり、おのずから世界史のそれとは異なる。現代国際政治の動向は、世界史学習のさい、学年末にそれもしばしばイメージに取扱われるのに反し、社会学習では、ここがやま場となる。生徒の関心も高い問題である。

政治の分野では、世界史と重複し共通する内容が相当多い。ここでは両科目間で、じゅうぶんな連絡と考慮が払われねばならない。

## (2) 経 済

社会教科書を通読して、従前の一般社会教科書にみられたような、唯物史観的社会経済史の記述が影を薄くしたといえる。経済の項目についての記述についても、経済史に当て

られる比重が軽くなっている。近代産業と資本主義経済の特色を明かにするため、その発達史がとりあげられる程度である。

重商主義、産業革命とその影響、帝国主義などは社会でとり上げられるが、世界史でも

**第1表 文部検定済 32年使用 「社会」教科書にみられる世界史と関連する事項一覧**

註 各事項、人名とも、11種の教科書中、半数の6種以上に記されているものに\*\*印を、2~5種に記されるものに\*印をつけ、1種のものには記されないものはそのままとした。太字は分類整理のためかりにつくったもの。

指導項目	事 項	人 名
政治と国民生活	ハンムラビ法典 古代エジプト *王権神授説 *社会契約説 *イギリス革命 *フランス革命 * アメリカ独立 議院内閣制 ワイマール憲法	ソクラテス *プラトン **アレストテレス 孔子 マキアベリ *ポードン *ホップス *ロック モンテスキュー *ルソー スミス カント ヘーゲル ミル
民主政治の発達	古代国家の民主制 *ギリシア 僭主政治 *ローマ ローマ帝政 近代民主政治のはじめ [**イギリス] **イギリス革命 **マグナカルタ *身分制議会 * 絶対主義 星法院 スチュアート朝 **権利請願 **清教徒革命 *人身保護令 **名誉革命 *権利宣言 **権利章典 王位確定法 ハノーヴァ王朝 ヨーマンリー 啓蒙思想 *議院内閣制 *ホイッグ党とトーリー党 [**フランス] **フランス革命 王権神授説 絶対主義 ブルボン王朝 アンシャン・レジーム ユグノー派の モナルコスキ **啓蒙思想 三部会 パスチュー牢獄 *人権宣言 フランス憲法 ジャコバン ジロンド [**アメリカ合衆国]**アメリカ独立戦争 ビルグリム・ファーザーズ	ペルクレス ヘロドトス ソクラテス プラトン アレストテレス  *ジョン シモン・ド・モンフォール *ヘンリーⅧ *チャールスⅠ **クロムウェル ジェームスⅠ ジェームスⅡ ウィリアムⅢ  ヒューム **ロック ベンサム ウォルポール 小ピット  フィルム *ポードン アンリーⅣ *ルイⅩⅣ *ヴォルテール **モンテスキュー **ルソー ラ・ファイエット  *ジェファーソン トーマ

	<p>清教徒 *独立宣言 *人権宣言 合衆国憲法</p> <p><b>民主政治の展開</b></p> <p>[*イギリス] *選挙法改正 チャーチスト運動 自由主義 福祉国家</p> <p>[フランス] 1814年憲法 七月革命 二月革命 パリ・コミューヌ 社会主義運動 第四共和制</p> <p>[アメリカ] ニュー・デール</p> <p>[ドイツ] バイエルン, バーデン, ウェルテンベルヒ, ヘッセンの各憲法 *ワイマール憲法 *ナチズム</p> <p>[イタリア] *ファシズム アテセルボ法</p> <p>[*ロシアとソヴィエト] ツァーロマノフ王朝 *ロシア革命 *メンシエヴィキとボルシェヴィキ ソヴィエト憲法</p> <p><b>近代国際社会の形成まで</b></p> <p>キリスト教的世界 地理上の発見</p> <p>*国際法概念のはじめ *ウェストファレン条約 *永久平和論 ナポレオン戦争 *ウィーン会議と神聖同盟 ヨーロッパ協商 モンロー主義</p> <p><b>第1次大戦後</b></p> <p>* *国際連盟 *ヴェルサイユ体制</p> <p><b>第2次大戦後 (省略)</b></p>	<p>ス・ペイン ジョージ・メーソン *パトリック・ヘンリー ワシントン</p> <p>オーエン ノース内閣 ミル</p> <p>ナポレオン</p> <p>*サン・シモン *フーリエ (ブラックストン)</p> <p>*リンカーン *ルーズヴェルト</p> <p>*フリードリッヒ大王 ラッザール *ヒトラー</p> <p>(マキアベリー) *ムツォリニー</p> <p>ペーター大帝 (*マルクス *エンゲルス) *レーニン ケレンスキー スターリン バークニン</p> <p>*グロスチウス</p> <p>*サン・ピエール *カント マキアベリ リシュリユー フィヒテ アンリー-IV エリザベス ガルバルジー</p> <p>*ウイルソン</p>
<p>国際政治</p> <p>経済生活の発達</p>	<p><b>資本主義以前</b></p> <p>*原始社会</p> <p>*古代社会</p> <p>*ギリシア *ローマ</p> <p>*封建経済</p> <p>*領主 *農奴 賦役 *農業</p> <p>* *荘園 *市 *ギルド *徒弟制による手工業</p> <p><b>資本主義経済の成立</b></p> <p>*封建制の崩壊</p>	

農民一撥 \*エンクロージア 荘園制  
 の崩壊 \*商業資本主義 \*\*問屋制  
 手工業 \*\*マニファクチュア \*\*  
 重商主義  
 \*\*産業革命  
 \*\*イギリス \*アメリカ \*フラン  
 ス \*ドイツ  
 \*経済的自由主義

**資本主義経済の発達**

\*高度資本主義 \*独占的帝国主義  
 \*資本主義の修正 \*\*ニュー・デ  
 イル政策 \*イギリス 国有化政策

**社会主義**

\*社会主義思想の発達 空想的社会  
 主義 科学的社会主義 共産主義  
 \*社会主義経済体制 \*ロシア革命  
 \*ゴスプラン \*ネップ \*集団農場  
 コンビナート \*5カ年計画  
 2つの体制

国際経済

(第2次大戦後の事項が多く、省略)

\*ケネー \*\*スミス \*  
 リカルド \*マルサス \*  
 ミル \*ケインズ \*ルー  
 ズベルト

\*サン・シモン フーリエ  
 \*オーウェン \*マルクス  
 \*エンゲルス \*レーニン  
 スターリン

労働運動の発達

**労働関係の成立**

\*奴隷 \*農奴 \*親方と徒弟職人  
 \*賃金労働者

**各国の労働運動**

[\*\*イギリス] \*団結禁止法 \*機  
 械打こわし運動 \*\*チャーチスト運  
 動 \*\*T.U.C. \*\*フェビアン協  
 会 \*\*労働党の成立 \*労働党内閣  
 [\*\*アメリカ] \*\*労働騎士団 \*  
 \*\*I.W.W. \*\*A.F.L. \*\*C.I.  
 O. \*\*ワグナー法 \*\*タフト・ハ  
 ートレー法  
 [\*ドイツ] 全ドイツ労組 国際労組  
 自由労働組合 ヒルシュドウンゲン労  
 組 キリスト教労組 \*ドイツ社会主  
 義労働党 \*社会主義者鎮圧法 \*ド  
 イツ社会民主党 ドイツ共産党 カソ  
 リック中央党 ナチス政権 ドイツ労  
 働組合総同盟

\*オーウェン  
 \*ウェップ \*ショー

\*ゴンパース

\*ラッサール リーブクネ  
 ヒト  
 ビスマルク

	<p>〔ロシア〕 帝政時代 ソ連</p> <p><b>国際労働運動</b></p> <p>19世紀前半 *共産主義者同盟**  第1インター・ナショナル パークニ  ン派とマルクス派 ドイツ社会主義勞  働党 フランス労働党 **第2イン  ター ドイツ社会民主党 アムステル  ダム・インター **第3インター  (コミンテルン) *コンミフォルム  *社会主義インター *世界労連 *  *自由労連</p> <p><b>社会思想</b></p> <p>*協同組合運動  *社会主義運動</p> <p>*婦人運動</p>	<p>レーニン ルクセンブルグ</p> <p>*オーウェン ブルードン  モアー シモン フェリー  ブルードン マルクス エ  ンゲルス ベルンスタイン  レーニン ウェツプ ショ  ー メルターク ウルスト  ンクラフト ミル ベーベ  ル ツェトキン</p>
<p>倫理哲学思想</p>	<p><b>古代中世</b></p> <p>ストア学派 エピキュ  ロス学派</p> <p>旧約聖書 新約聖書  *儒教 道教  仏教</p> <p><b>近世近代</b></p> <p>個人主義と人格主義  唯物主義と理想主義  現実主義 実存主義  ヒューマニズム  平和思想</p> <p><b>現代</b></p>	<p>ピタゴラス **ソクラテス **プラト  ン **アレストテレス *デモクリトス  アリスティポス エピクロス アンティス  ティネス ディオゲネス ゼノン キクロ  **キリスト アウグスチヌス アキナス  **孔子 *孟子 朱子 王陽明  *釈迦</p> <p>*ダ・ヴィンチ グロスチウス* ベーコン  *ベンサム *ホッブス ロック ニュー  トン パスカル ラ・メトリ *ルソー  **カント **ヘーゲル *フォイエル  バッハ **マルクス ペスタロッチ *  ルーチュ ビンデルバンド ナトルブ リ  ツケルト ジンメル ブント *キェルケ  ゴール ボードレル ドストエクスキ  トルストイ ロングフェーロー テニエス  リップス ヘレン・ケラー ガンデー ロ  マン・ロラン デューゲール ヘュセラ  ツセル カー ルーズヴェルト 同夫人  サルトル ヤスパー マルセル マリタン</p>

重要事項である。それより、複雑な世界史の流れにとかく印象が薄れがちの社会主義経済が、資本主義経済と対比されて取扱われ、その理解に効果的であろう。しかし、これも世界史でロシア革命をやるので、両科目で共通している。この項目での関連事項は、社会においてはとくに重要でない。しかし社会では、世界史とは異り、他の因子を交えず、経済史一本に究明してゆける利点がある。もちろんそのさい、世界史の知識と理解があればこれにこしたことはない。とくに原始社会の経済から学習を始めるには、しっかりした時代的知識を必要とする。それできなければ上滑りなものしか掴めないであろう。

ここでは、国際経済の動向、とくに第2次大戦後の世界のおもな国々を中心とするそれがよく書かれている。社会で、すでに経済に関する基本的知識、経済生活における具体的諸事象を通じて国民経済の総合的理解、さらに日本経済の実態の学習を終えて、この問題を採り上げることは、非常に効果的であろう。世界史では、さきにみた国際政治の場合と同じく、この項目は十分でなからう。

### (3) 社 会

農村生活の項目では、世界史的事項が含まれないといっていい。労働関係の項目には、資本主義社会の成立とそれに伴う労働問題の発生と諸外国ならびに国際的な労働運動の展望が記述され、あわせてその背景をなす社会思潮もとり上げられている。各社会教科書の書き方にはあまり変化がなく、どの項目におけるよりも定型的である。しかるに、その内容の多くの事項は、世界史ではやや2次的に取扱われていることを否定できない。また、政治と経済の項目で学習した二番煎じの感とする事項もある。

労働関係や労働運動の学習は、歴史的立場を重視するより、現実に解決のためにどのような方策がとられているかを、たんに今日の日本の場合に限らないで、古今東西に豊富な事例を求めるのがよいのではないか。例えば T. U. C. や I. F. T. U. の起源を話しの泉に知るというのでなく、なぜ職業別労組がよかったのか、なぜ社会改良主義に立ったのか、団体交渉の制限はどこ国の法律ではどうなっているか、など追求するのがよいのではないか。

### (4) 倫 理 哲 学 思 想

人間の理念と民主的社会という項目で、古来のすぐれた思想や人に適宜ふれている。だがここでは、各教科書により、紹介される事項が任意である。もちろん歴史的系統を追って書かれた教科書も少ない。世界史の学習には普通出ない人名もあげられている。

しかし、これらの思想の学習には、単に論理的演繹や訓話的解釈にとどまらず、時代と個人環境の背景やその歴史的、社会的影響に及べば、その理解のみならず体得にも資するところが大なのではなからうか。ここでも世界史の知識が望まれる。

### (5) 世界史学習と社会学習

各項目ごとに、両科目の内容上の関連をみたが、社会の学習には、世界史の学習がさきにされていると便利であるといえよう。逆に世界史の学習も社会の学習がさきにすんでもよいが、世界史の学習は時代的に系統的に展開され、じゅんじ積み重ねてゆけばよい。

だから、社会全体としての一貫計画においては、世界史を社会の先に学習する方が能率的、効果的でないかと考える。すなわち、世界史は第2次大戦までの歴史を受け持ち、社

会と共通する事項を省略しないでやる。社会は、世界史のあとをうけ、第2次大戦後を受け持つ。ただ、社会は、その固有な観点から特殊事項についてさかのぼって世界史の理解を利用する。生徒は、世界史の諸事例を利用し、政治に経済に社会に、はたまた倫理哲学思想に関する理解を深めるがよからう。こうして、現代社会の諸問題について、科学的な知識と批判的な思考力を養い、さらに人間生活の根本的なあり方について、反省と自覚を高めることができよう。

## (二) 社会科日本史との関連

日本史の展開は、東海の島国でなされたとはいえ、いうまでもなく世界史の歩みとは無関係でなかった。世界史と日本史とのおもな関連事項をとり上げてみると、第2表のようになる。項目は指導要領によったが、その関連性は社会の場合よりも高い位である。しかも歴史の主流と直結する事項が少くない。

高校の日本史においては、中学校よりも程度の高い歴史的知識を与え、日本史をより深く、科学的、系統的に理解させる。諸外国の歴史との単なるつながりではなく、広く世界史の動きの中に、日本の置かれた位置を考えさせ、歴史的な事件も、その事実の底にある社会の構造と関連させながら、より広い視野のうちに、その歴史的意義を追求させる。したがって、日本史の学習には、世界史の知識と理解とが必要であろう。これがなければ中学校の日本史のくり返しにすぎない。高校らしい日本史の特色を出すには、世界史学習を日本史学習に先行させた方がよい。こうしてこそ日本史の目標がよりよく達せられよう。

## (三) 社会科人文地理との関連

世界史と人文地理は、空間的には一致するが、学習の内容からは、直接に関連する事項がほとんどない。国家と国際関係の項目で、国境問題や民族問題などが直接的なものである。間接的な関連事項をあげれば数多くある。しかし、それらは、学習活動に不可欠のものではない。

×                      ×                      ×

社会科の各科目間では、内容が重複し共通するものが多い。これは社会科として当然でその取扱いの観点は各科目でそれぞれ異っている。しかし、各科目の内容を検討し、その重複する内容を吟味し、そして学習活動を能率的に効果的に運営するため、各科目の履修の順序を考えるならば、世界史を先行させることであろう。

### 第2表 世界史と関連する日本史上の事項

#### (1) 原始の社会

日本人の系統 日本語の系統

縄文式文化 弥生式文化 稲作 金属器 農耕社会 原始信仰

#### (2) 大和國家の成立

中国文献、広開土王碑による東アジアの動向 古墳文化 大陸文化の摂取

聖徳太子の政治と思想

飛鳥文化 日本紀元

#### (3) 律令國家の展開

大化の改新 大陸、半島の情勢 遣唐使 律令 都城 和銅開珎 白鳳文化



- 六国史 天平文化 渤海との交通  
 平安初期の仏教と文学
- (4) 平安貴族の政治と武士の発生  
 平安文化  
 対宋関係
- (5) 鎌倉政権の成立  
 鎌倉仏教 鎌倉美術 日宋交通 宋学 元寇
- (6) 荘園の崩壊と大名領国制の成立  
 倭寇 日明貿易 日鮮関係 琉球との関係 五山文学 東山文化 元明文化の影響
- (7) 封建制度の完成と鎖国  
 ヨーロッパ人の来航 キリスト教とキリシタン文化 西洋諸国との交通, 貿易  
 日本人の海外発展  
 朝鮮の役 徳川氏の対明, 清, 鮮関係 朱子学 陽明学 鎖国
- (8) 封建制度の崩壊  
 洋学  
 開国 尊王攘夷
- (9) 明治維新と憲法の制定  
 明治維新 集権政治  
 富国強兵と文明開化 西洋文明の受入れ 教育と文化  
 自由民権運動 政党の結成  
 領土確定 対鮮, 清関係  
 帝国憲法の制定 諸法典の編纂
- (10) 近代国家への成長  
 資本主義の発達  
 条約改正  
 日清戦争 日英同盟 日露戦争 日韓併合  
 近代文化の展開 社会主義運動の発生
- (11) 2つの大戦と日本  
 第1次世界大戦 対華21カ条要求 シベリア出兵  
 国際連盟 軍縮会議 日本の国際的地位  
 第1次大戦後の社会と文化 日本経済の発達  
 世界恐慌 満洲事変 日華事変  
 3国同盟 第2次世界大戦
- (12) 第2次世界大戦後の世界と日本  
 連合国の対日占領政策  
 戦後の民主化の諸問題  
 戦後の国民生活と文化  
 サンフランシスコ平和条約と日米関係  
 2つの世界の対立と日本